

# グランドメゾン・アカシア

むつみあき

## 【人物】

中野一男  
中野圭太  
中野仁美  
長沼京子  
長沼香織  
川上健一  
野村玲奈  
杉内由香里

## 【舞台】

郊外に在る中野家のマンションの居間。

○シーン1 7月4日(月)

居間のテレビは付けっぱなしにされている。  
流れているのは旅行番組だろうか。  
部屋着の仁美、居間でゴロゴロしている。  
携帯をいじりながら、お菓子を食べている。

一男 そこへ帰ってくる父、一男。  
おう。

一男、買って来たものを居間に置き、寝室で服を着替える。  
だらしが無い部屋着になって戻ってくる。

一男 くださいま。  
仁美 ……

一男、買って来た物を冷蔵庫にしまいながら、  
プリン買って来たから、食べていいよ…あれ？刺身食った？ねえ…刺身。  
…食べる訳無いでしょ。

一男、答えない。  
一男、麦茶をコップにつき、座る。

一男 ああ、疲れた…(テレビを見て) ああ、沖縄？なんだ、一緒にきたいの？  
仁美、ため息をつき、何か言いたそう。

一男 ごめんな、今回は留守番しといてくれ。お土産買ってくるからさ。なにがいい？  
仁美 遠慮すんな。  
一男 してない。

一男 じゃあ今度は、みんなで行くか？久々の家族旅行。沖縄はいいぞ。なんか人生観変わりそう  
だよな。あんな島いったら。  
仁美、再びため息。

しばしの沈黙、テレビの音だけが聞こえる。

一男 どこがいいと思う？美ら海水族館ってところには行こうと思うんだけどさ。なんか、どこ行っ  
たらいいのかわかんないよね。ひめゆりつてのものも不謹慎な気がするし。

仁美 どこでもいいよ。  
一男 そうだよな、どこでも楽しいよな、沖縄だもんな。  
仁美 ……

再び、沈黙。  
麦茶を飲む一男。

一男 さっき先生に会ったぞ。  
仁美 なんて？

一男 なんか車検の帰りとかいってたぞ。ほら、その公園で。  
仁美 ふーん。

一男 先生、しぶいバイク乗ってんな、KawasakiのZ2だよ。

仁美 知らない。  
一男 高いんだぞ、今出回ってなくて。

仁美 寝転がって、携帯をいじる。  
一男 どうした？なんかあったのか？

仁美 なにが？  
一男 学校で。

仁美 なんもないよ。  
一男 そうか。

再び、沈黙。  
麦茶を飲む一男。

一男 最近のテレビはさ、面白くなくなってんだよなあ、昔と比べて…。  
仁美 じゃ見なきゃいいじゃん。

一男 まあ、そうだな。  
仁美 テレビを消す一男。

仁美 ちよつと。  
一男 ため息を付きテレビをつける仁美。

一男 いや、見てなかったから。  
仁美 見てるから。

一男 見てなかったじゃん。  
仁美 見てなくても聞いているから。

一男 だって、携帯やってるから。  
仁美 なに、携帯やるって。

一男 だからこうやって。  
携帯をいじるジェスチャーをする一男。

仁美 大きなため息をつく。  
一男 再びテレビを消す一男、改めて、

一男 仁美、なんかあるんだったら…  
仁美、テレビをつける。

一男 一男、テレビを消し、  
仁美、なんかあるんだったら…

一男 仁美、テレビをつける。  
一男、テレビを消し、

一男 なんか…  
仁美、テレビをつける。

一男 おい仁美…  
押し問答が続く中、着信音が響く。

一男 一男、電話に出る。  
一男 はい、もしもし。…おお、圭太、どうした？…え？これから？どうした急に？…うん、うん

…まあ、いいけどさ、なんもないぞ…うん…それは大丈夫だけど、話したいことってなんだよ？  
…なんだよ？金なら無いぞ…じゃあなに？…

仁美 電話の途中で、我慢が出来なくなる仁美。  
ね！。

気付かない一男。

仁美 …ねー。  
まだ気付かない。

仁美 …ねー!!!!!!  
ん？なに？

仁美 見てるから。  
一男 ああ、そうだな。

一男 一男、寝室に行こうと立ち上がるも、話が盛り上がり、その場で電話を続けてしまう。  
一男 わりわり、なんでもない…それで？…なんだよ…もったいぶんなよ…もしかして結婚？…な  
わけないよな…なに？

仁美 ねー…ねー!!!!!!  
一男 ん？

仁美 んじゃなくて…ねー!!!!!!  
一男 (仁美に) わかったわかった…ごめんごめん。(電話口に) 仁美に怒られちゃったよ。最近  
すぐ怒るから。  
仁美のお菓子を食べる音が聞こえる。

京子 京子がエコバックを持って、帰ってくる。  
ただいま。(仁美に) ただいま。

京子 京子、買ってきた食材を冷蔵庫にしまう。  
京子 あれ、ひとちゃん、プリン買ってきたの？…今日何がいい？…これちょっと危ないから、生  
姜焼きとかどう？あ、でも卵も…  
仁美、冷蔵庫に近づく。

仁美 どいて。  
京子 あ、なんかとる？。

仁美 いい。  
京子 そう。

京子、冷蔵庫の前を空ける。  
仁美、冷蔵庫から飲み物を取り出す。  
京子 あ、そうだ。  
京子、テレビのチャンネルを変える。

仁美 あ、ちよ…。  
京子 危なかった！  
仁美、ため息。

一男 一男、戻ってくる。  
一男 おう、おかえり。  
京子 ただいま。

一男 なに？  
京子 しゃべくり。  
一男 好きだね。

京子 とりあえず録画だけ出来れば。  
一男 そろそろ消さないと、いっぱいになっちゃうだろ？  
京子 うーん、でもなかなか。

一男 仁美もぼちぼち消してけよ。

仁美 …うん。  
京子 おっけい。  
一男 香織は？遅いね。  
京子 今日はバイトだつて。もう行く？  
一男 あ、それがさ、圭太帰ってくるっていうから、ちょっとだけ待ってもらってもいい？  
京子 え？今日？  
一男 そう、急に電話かかってきちゃってさ、なんか話あるっていうから。  
京子 わかった。  
一男 ごめんね。  
京子 ううん。じゃあ先お風呂入っちゃう？  
一男 そうだな。  
京子 じゃあいれちやうね。  
一男 おう、ありがとう。  
京子 京子、湯船を張りに行く。  
一男 (仁美に) 圭太帰ってくるって。  
仁美、テレビをつける。  
一男 テレビの音だけが聞こえる。  
香織、家に帰ってくる。  
香織 ただいま。  
一男 おう、おかえり。すいぶん遅かったね。  
香織 足パンパン。  
一男 立ち仕事はきついよな。プリンあるぞ。  
香織 ほんとに！？  
京子、戻ってくる。  
京子 あ、おかえり。  
香織 ただいま。  
京子 どうだった？  
香織 もう最悪。  
京子 大変ね。  
香織、自分の部屋に荷物を置きに行く。  
京子、冷蔵庫を開き、  
京子 あ、ねー、圭太くんのご飯いるよね？。  
一男 あ、そうだね、お願いできる？  
京子 なにがいいかな？  
一男 なんでもいいよ。  
京子 そう？うーん、お肉そろそろだから、生姜焼きとかでいいかな？  
一男 いいんじゃない。  
京子 じゃあそうする。ひとちゃん、今日生姜焼きに…  
仁美 カレー。  
京子 ……じゃあカレーにしよっか。  
一男 えー、生姜焼きでいいよ。  
京子 でもカレーもいけるし。  
一男 めんどくさくない？

京子 全然。変わんないよ。  
一男 そうなの？

京子 (仁美に) じゃあ、カレーにするね。  
一男 仁美あんまりわがまま言うなよ。

仁美、舌打ち。

京子 辛さどうする？

一男 中辛かな。

京子 そうよね。ひとちゃんも中辛で大丈夫…

仁美 甘口。

一男 えー、甘口やだよ。

京子 うーん、どうしよ。

一男 中辛でいいだろ？

仁美 甘口。

京子 …じゃあ両方。

一男 え、なに？混ぜるの？

京子 違うよ、両方作る。

一男 ええ、めんどくさくない？

京子 大丈夫。

一男 そう？

京子 じゃあ作っちゃおっかな。

一男 おう。

京子 お風呂適当に見てね。

一男 おう。

京子、寝室へ行きエコバックと財布を置く。

一男 ひとみ、まだ甘口好きなんだな。辛いダメなの？

仁美、空返事。

一男 でも、甘口と中辛って混ぜたらどっちがか勝つんだろうな？中くらいだから、甘口のが強いのかな？

一男 テレビの音が聞こえる。

一男 …お風呂見てくる。

一男、お風呂を止めに行く。

香織、身支度を整え、部屋から出てくる。冷蔵庫をあさる。

京子 京子戻ってきて、キッチンへ。

香織 プリンもらうね。

京子 あ、それひとちゃんの。

香織 え？…(仁美に) プリン貰うね。

仁美 …。

香織、戸惑いながらもプリンを食べる。

一男、風呂を止め、戻ってくる。

香織 あ、プリン。

一男 おう、どんどん食べな。

香織 おいしい。

一男 さっきのなに？

香織 一男 最悪って。  
香織 一男 あ、今日急にバイト入ってくれて言われちゃって。  
香織 一男 人足りないの？  
香織 一男 全然。  
香織 一男 店長はなにやってんだ。  
香織 一男 ね。  
香織 一男 ちゃんと断った方がいいぞ、人が足りないのは向こうが悪いんだから。  
香織 一男 うん。  
香織 一男 授業だって大変だろ？  
香織 一男 でも高校より授業少ないし、大学ほど難しくないと思うし。  
香織 一男 そんなことないだろ、短大って言っても大学なんだから。  
香織 一男 うーん、でも就活メインだから。  
香織 一男 なに？もうそんなか？  
香織 一男 うん。  
香織 一男 だって去年入ったばっかだろ？  
香織 一男 そんなもんだよ。  
香織 一男 大変だな。  
香織 一男 じゃあちよつと留書いてくる。  
香織 一男 どこに？  
香織 一男 モス。  
香織 一男 なんで？うちで書けばいいじゃん。  
香織 一男 集中してやっちゃいたいから。  
香織 一男 へー、大変だな。  
香織 一男 あ、そーだ。  
香織 一男 どした？  
香織 一男 ちよつと待ってて。  
香織 一男 香織、部屋にもどり、沖縄の旅行情報誌を持ってくる。  
香織 一男 これ。  
香織 一男 お、さんきゅー。  
香織 一男 お母さん、こういう計画性ないから。  
香織 一男 そうなの？  
香織 一男 そうじゃない？  
香織 一男 まあ、たしかに、いつもおれが場所決めてるか。  
香織 一男 ずっと後ろ捕まってるだけでしょ。  
香織 一男 まあ、二人乗りだから仕方な…。  
仁美 ねー。  
香織 一男 あ、ごめん。  
香織 一男 どこがいいと思う？。  
香織 一男 洞窟とかは？  
香織 一男 危なくないかな？  
香織 一男 大丈夫だよ。これは、二人で作って来なよ。  
香織 一男 コップか。いいかもな。

香織 一男 でしょ、これならずと使えるし。  
いいな、なんか色違いみたいな奴とか。

京子、戻ってくる。

京子 何？盛り上がって。

香織 ひみつー。

京子 なに？

香織 ダメダメ、ね。

一男 ああ。

京子 えー、すごい気になる。

香織 ダメだって。

京子 いいじゃん。

香織 ダメー。

仁美 もー!!!

香織 …ごめん。

一男 すねてんだよ。自分が連れてってもらえないから。

香織 じゃ行こっかな。

京子 また書きいくの？

香織 うん。

京子 じゃあ私も一緒に出ようかな。

一男 どした？

京子 ルー、中辛しかなかった。

一男 京子、寝室に財布を取りに行き、

仁美 えー、じゃあ中辛でいいよな？。

一男 甘口。

一男 あんまわがままいうなよ。

京子 京子、戻って来て、

一男 いいからいいから。

京子 そう？

一男 じゃいこ。

香織 うん。

京子 ご飯どうする？

香織 どうしよっかな…

京子、香織、話しながら玄関へ。